

Oracle9i Developer Suite for HP-UX

リリース・ノート

リリース 2 (9.0.2)

2003 年 4 月

部品番号 : J06726-02

目次

製品の名称	2
動作要件	2
Oracle9i Developer Suite 日本語環境での構成	3
プログラム・コンポーネントの日本語環境での構成	3
Oracle9i Forms Developer	3
日本語ドキュメント	3
Oracle9i Forms Developer	3
Oracle9i Reports Developer	3
既知の問題	3
インストールの問題	3
Root.sh の実行時の警告メッセージ	3
インストール時のパフォーマンス (オプション)	3
Oracle9i Developer Suite Documentation Library のインストール	4
英語版ドキュメントのインストール	4
サイレント・インストールと非対話型インストール	4
プリインストール	4
レスポンス・ファイルのパラメータ	6
rwaddpage.sql を実行する前の手順	6
削除の問題	7
Oracle Universal Installer では全ファイルは削除されない	7
Oracle9i Forms Developer の問題	7
CLOB 列に対する処理	7
Oracle9i Reports Developer の問題	7
Windows 上で作成した Reports 定義ファイルの JA16EUC 環境への移行	7
製品の削除	7
製品 CD-ROM からの Oracle Universal Installer の使用	7
コンポーネントを削除できない	7

ORACLE®

Oracle は登録商標です。Oracle9i、OracleMetaLink、Oracle Store、Oracle8i、Oracle9iAS Discoverer、PL/SQL および SQL*Plus は、オラクル社の商標または登録商標です。その他の名称は、各所有者の商標です。

Copyright © 2003 Oracle Corporation.
All Rights Reserved.

このドキュメントは、Oracle9i Developer Suite リリース 2 (9.0.2) と、その機能の記載内容との相違点を要約したものです。

関連項目： Oracle9i Developer Suite の各コンポーネントのリリース・ノートも参照してください。

リリース・ノートとその他のドキュメントの最新版については、次のサイトにある Oracle Technology Network を参照してください。

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ORACLE_HOME は、特に指定のない限り、Oracle9i Developer Suite をインストールする Oracle ホームの名前およびディレクトリを示します。

製品の名称

Oracle9i Developer Suite (Oracle9iDS) は、旧 Oracle Internet Developer Suite から名称変更されました。

Windows の場合、Oracle9i Developer Suite リリース 2 には次のコンポーネントが含まれます。

- Oracle9i JDeveloper
- Oracle9i Forms Developer (旧 Oracle Developer の Forms)
- Oracle9i Designer
- Oracle9i Software Configuration Manager (旧 Oracle Repository)
- Oracle9i Warehouse Builder
- Oracle9i Discoverer Administrator (旧 Oracle Discoverer Administration Edition。 Oracle9i Discoverer Desktop を含む)
- Oracle9i Reports Developer (旧 Oracle Developer の Reports)

ただし、Oracle9i Developer Suite リリース 2 は、Windows 95/98/ME ではサポートされていません。

UNIX の場合、Oracle9i Developer Suite リリース 2 には次のコンポーネントが含まれます。

- Oracle9i JDeveloper
- Oracle9i Forms Developer (旧 Oracle Developer の Forms)
- Oracle9i Reports Developer (旧 Oracle Developer の Reports)

動作要件

HP-UX プラットフォーム上のこのリリースの Oracle9i Developer Suite Release 2 では、次の機能はサポートされません。プログラムがインストールされている場合やドキュメントに記述がある場合でもその機能の使用はサポートされませんのでご注意ください。

Oracle9i JDeveloper

動作要件に関する最新の情報は、次のサイトで確認できます。

<http://www.oracle.co.jp/products/system/index.html>

Oracle9i Developer Suite 日本語環境での構成

プログラム・コンポーネントの日本語環境での構成

Oracle9i Forms Developer

Oracle9i Forms Developer を使用するためには、Oracle9i Developer Suite をインストール後、パッチを適用する必要があります。

このパッチは製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) for HP-UX のアップデート CD に含まれています。次の手順に従ってパッチを適用し、Oracle9i Forms Developer を日本語環境用に構成してください。

1. \$ORACLE_HOME/procbuilder90/admin/resource/JA ディレクトリに移動します。
2. 既存の debm.res ファイルの名前を debm.res.old などに変更し、バックアップを取ります。
3. アップデート CD の次のファイルを \$ORACLE_HOME/procbuilder90/admin/resource/JA ディレクトリに上書きコピーします。

Forms/debm.res

日本語ドキュメント

Oracle9i Forms Developer

Oracle9i Forms Developer のドキュメントを次の手順に従ってインストールしてください。この手順では、製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD を使用します。

1. ドキュメント CD に含まれている次のディレクトリを \$ORACLE_HOME/forms90/ ディレクトリに上書きコピーします。

JDoc/Hp/forms90/doc

Oracle9i Reports Developer

Oracle9i Reports Developer のドキュメントを次の手順に従ってインストールしてください。この手順では、製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD を使用します。

1. ドキュメント CD に含まれている次のディレクトリを \$ORACLE_HOME/reports/ ディレクトリに上書きコピーします。

JDoc/Hp/reports/doc

既知の問題

この項は、次の部分に分かれています。

- [インストールの問題](#)
- [削除の問題](#)
- [Oracle9i Forms Developer の問題](#)
- [Oracle9i Reports Developer の問題](#)

インストールの問題

Root.sh の実行時の警告メッセージ

UNIX プラットフォームでは、スクリプト root.sh を実行しているときに、警告メッセージが表示されます。このメッセージは、無視できます。

インストール時のパフォーマンス (オプション)

ウィルス保護プログラムの設定によっては、インストール時のパフォーマンスが低下することがあります。インストールを速くするには、Oracle9iDS をインストールする前に、ウィルス保護プログラムを停止しておく方法があります。

Oracle9i Developer Suite Documentation Library のインストール

英語版ドキュメントのインストール

英語版のドキュメントをインストールする場合、Windows および Solaris では、ドキュメント・ライブラリ CD-ROM からご使用のシステムにファイルをコピーするか、Oracle9i Developer Suite Disk 1 CD-ROM の Oracle Universal Installer を使用してファイルをインストールすることができます。

HP-UX および Linux では、ドキュメント・ライブラリ CD-ROM からご使用のシステムにファイルをコピーします。

Oracle9i Developer Suite Documentation Library をインストールする手順は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

サイレント・インストールと非対話型インストール

Oracle9iDS には、2通りの非対話型インストールがあります。

- **サイレント・インストール**：実行する場合は、Oracle Universal Installer でレスポンス・ファイルを使用し、-silent フラグを指定します。インストール画面は表示されません。インストーラは、インストールからターミナル・ウィンドウおよび silentInstall.log ファイルへと出力を生成します。
- **非対話型インストール**：実行する場合は、Oracle Universal Installer でレスポンス・ファイルを使用しますが、-silent フラグは指定しません。特定のウィンドウを選択して非表示にし、他のウィンドウのみを画面に表示できます。

レスポンス・ファイルは、通常はインストール・ダイアログで取得される問合せの応答を含む単純なテキスト・ファイルです。Oracle9iDS には、インストールのタイプによって異なるレスポンス・ファイルがあります。これらのファイルは、Oracle9iDS CD-ROM Disk1 に収録されています。レスポンス・ファイルは、サイレント・インストールまたは非対話型インストールに合わせて編集する必要があります。

プリインストール

サイレント・インストールまたは非対話型インストールを開始する前に、ハードウェア要件およびソフトウェア要件や『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』に記載されたプリインストール・タスクを確認してください。

Windows NT では、Windows システム・ファイルのインストールが完了していることを確認してください。UNIX プラットフォームでは、oraInventory ディレクトリが存在していることを確認してください。UNIX マシンに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、次のコマンドを入力してください。

1. su
2. mkdir /var/opt/oracle
3. echo "inventory_loc=/local_location/oraInventory" > /var/opt/oracle/oraInst.loc
/local_location/oraInventory は、ご使用の Oracle Universal Installer のインベントリ・ディレクトリです。
4. chown -R idsinstaller /var/opt/oracle
idsinstaller は、Oracle9iDS のインストールを実行するユーザーです。
5. exit

サイレント・インストールまたは非対話型インストールを実行する手順は、次のとおりです。

1. システムに合わせて選択したレスポンス・ファイルをコピーします。

レスポンス・ファイルは、Oracle9iDS CD-ROM Disk1 の stage/Response に収録されています。

Windows には、次のレスポンス・ファイルがあります。

- oracle.ids.toplevel.development.J2EE.rsp
- oracle.ids.toplevel.development.BI.rsp
- oracle.ids.toplevel.development.RAD.rsp
- oracle.ids.toplevel.development.Complete.rsp

UNIX には、次のレスポンス・ファイルがあります。

- oracle.ids.toplevel.development.Minimum.rsp
 - oracle.ids.toplevel.development.Complete.rsp
2. テキスト・エディタを使用して、システムのレスポンス・ファイルを編集し、システム固有の情報を追加します。レスポンス・ファイルのパラメータのリストについては、この項で後述します。

変数の値を指定して、インストールをカスタマイズする必要があります。レスポンス・ファイルに含まれる各変数には、コメントが付けられています。コメントにより変数タイプを識別できます。値は次のフォーマットで指定してください。

```
string = "Sample Value"
Boolean=True or False
Number=1000
StringList=("StringValue 1", "StringValue 2")
```

<必須の値>として定められた値は、サイレント・インストールで指定する必要があります。

インストールを開始する前に、使用するレスポンス・ファイルの変数値からコメントを削除してください。

3. UNIX の場合: 次のコマンドを入力して、作業するマシンの表示設定を行ってください。

```
setenv DISPLAY your_machine:0.0
```

4. setup.exe または runInstaller が収録されている Disk1 のルートにナビゲートします。

5. コマンド・プロンプト・ウィンドウでインストーラを起動し、パラメータとして使用するレスポンス・ファイルのフル・パスを指定します。たとえば、次のように指定します。

- Windows の場合: setup [-silent] -responseFile /<local_location>/oracle.ids.toplevel.development.<InstallType>.rsp
- UNIX の場合: runInstaller [-silent] -responseFile /<local_location>/oracle.ids.toplevel.development.<InstallType>.rsp

不適切または不完全なレスポンス・ファイルを使用してサイレント・インストールまたは非対話型インストールを実行したり、インストーラでディスク領域不足などのエラーが発生すると、インストールが失敗します。レスポンス・ファイルを指定せずに非対話型インストールを実行する場合も、インストールが失敗します。

コンテキスト、フォーマット、型が不適切な変数の値は、値が指定されていないものとして扱われます。セクションの外にある変数は無視されます。

サイレント・インストールまたは非対話型インストールの成功や失敗は、installActions.log に記録されます。また、サイレント・インストールでは silentInstall.log が作成されます。このログ・ファイルは、インストール中に oraInventory または Inventory ディレクトリに作成されます。サイレント・インストールまたは非対話型インストールが失敗した場合は、インストールの実行中に残ったすべてのファイルを完全に削除する必要があります。

6. UNIX の場合: root.sh スクリプトを実行します。

root.sh スクリプトを実行する手順は、次のとおりです。

- ルート・ユーザーとしてログオンします。
 - Oracle ホーム・ディレクトリで root.sh スクリプトを実行します。
 - ルート・ユーザーを終了します。
- サイレント・インストールの場合: サイレント・インストールの完了後に root.sh スクリプトを実行する必要があります。
 - 非対話型インストールの場合: Oracle9iDS の非対話型インストール中に、インストーラが root.sh スクリプトの実行を要求します。「Finished running generic part of the root.sh script」や「Now product-specific root actions will be performed」というメッセージが表示されたら、ルート・ユーザーを終了してインストール画面に戻ってください。

root.sh スクリプトにより、ORACLE_OWNER、ORACLE_HOME、ORACLE_SID の環境変数の設定やローカル bin ディレクトリのフル・パスが検出されます。デフォルトを受け入れたり、異なるローカル bin ディレクトリに変更したりできます。

レスポンス・ファイルのパラメータ

サイレント・インストールまたは非対話型インストールに使用するパラメータやその一般的な値は、次のとおりです。

UNIX_GROUP_NAME="dba" (またはインベントリ・ディレクトリに設定した UNIX グループ)

FROM_LOCATION="/<shiphome_location>/Disk1/stage/products.jar"

FROM_LOCATION_CD_LABEL="Oracle9i Developer Suite #.#.#.#" (注意: CD-ROM からインストールを実行する場合は、このパラメータに値を入力してください)

ORACLE_HOME="/<local_location>/oracle"

SHOW_SPLASH_SCREEN=true

SHOW_WELCOME_PAGE=false

SHOW_COMPONENT_LOCATIONS_PAGE=false

SHOW_CUSTOM_TREE_PAGE=false

SHOW_SUMMARY_PAGE=false

SHOW_INSTALL_PROGRESS_PAGE=true

SHOW_REQUIRED_CONFIG_TOOL_PAGE=false

SHOW_OPTIONAL_CONFIG_TOOL_PAGE=false

SHOW_RELEASE_NOTES=false

SHOW_ROOTSH_CONFIRMATION=false

SHOW_END_SESSION_PAGE=false

SHOW_EXIT_CONFIRMATION=false

NEXT_SESSION=false

NEXT_SESSION_ON_FAIL=false

SHOW_DEINSTALL_CONFIRMATION=false

SHOW_DEINSTALL_PROGRESS=true

LOCATION_FOR_DISK2="/<shiphome_location>/Disk1/stage/products.jar"

rwaddpage.sql を実行する前の手順

Configuration Assistant の実行に失敗して rwaddpag.sql スクリプトを流す必要がある場合は、その前に不完全にインストールされた状態になっている Oracle9i Reports Security ページとプロバイダを Oracle9iAS Portal から削除する必要があります。

Oracle9i Reports Security ページの削除手順:

1. Oracle9iAS Portal にログインします。
2. ビルダー・リンクをクリックします。
3. ナビゲータ・リンクをクリックします。
4. Portal 設計時ページの横のページ・グループのコンテンツ・リンクをクリックします。
5. ページ・リンクをクリックします。
6. Oracle Reports Security ページに対しての削除リンクをクリックします。
7. 削除される項目を充分確認し、正しければ確認ダイアログに対して「はい」をクリックします。これで Reports Security ページが削除されます。

Oracle9i Reports Security プロバイダの削除手順:

1. Oracle9iAS Portal にログインします。
2. ビルダーリンクをクリックします。
3. 構築リンクをクリックし、構築タブに移動します。
4. プロバイダ・ポートレットで、名前フィールドに ORACLE REPORTS SECURITY と入力します。

5. 削除をクリックします。これで Oracle Reports Security プロバイダが削除されます。

削除の問題

Oracle Universal Installer では全ファイルは削除されない

Oracle Universal Installer で削除しても、すべてのファイルとディレクトリは削除されません。ORACLE_HOME に残っているファイルとディレクトリは、手動で削除する必要があります。削除の詳細は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

Oracle9i Forms Developer の問題

ここに記述されているものに加え、別途提供されている『Oracle9i Forms Developer リリース・ノート』も参照してください。

CLOB 列に対する処理

CLOB 列が含まれるスキーマに対してアプリケーションを構築し、アプリケーションからその CLOB 列に対して問合せを行うと、格納されているデータによっては FRM-40505 エラーが出力され、データを取り出すことが出来ません。

Oracle9i Reports Developer の問題

ここに記述されているものに加え、別途提供されている『Oracle9i Reports Developer リリース・ノート』も参照してください。

Windows 上で作成した Reports 定義ファイルの JA16EUC 環境への移行

Windows 上で作成した Reports モジュールを、RDF 形式で JA16EUC キャラクタ・セットの HP-UX 環境の Reports Builder または Oracle9iAS Reports Services でオープンするとエラーが発生し、移行が正常に行われません。Windows 環境で作成された Reports モジュールを JA16EUC キャラクタ・セットで動作する環境に移行する場合は次の方法をとってください。

1. Windows 上の Forms Builder で Reports 定義ファイルを XML 形式で保存します。
2. XML 形式で保存された Reports 定義ファイルを HP-UX 環境にコピーします。XML 形式で保存された Reports 定義ファイルはテキスト・データですが FTP 等で転送する場合でも必ず binary モードで転送してください。
3. XML 形式で保存された Reports 定義ファイルを sjtoeuc コマンド等を使用して EUC に変換します。
4. 変換された Reports 定義ファイルを HP-UX 上の JA16EUC 環境の Reports でオープンします。

製品の削除

製品 CD-ROM からの Oracle Universal Installer の使用

UNIX プラットフォームでは、Oracle Universal Installer (OUI) がインストールの一部としてインストールされている場合と、インストールされていない場合があります。Oracle Universal Installer がインストールの一部としてインストールされていない場合に製品を削除するには、その製品のインストール用 CD-ROM から Oracle Universal Installer を実行する方法以外ありません。Oracle Universal Installer を起動する手順は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

コンポーネントを削除できない

『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』の説明のとおり、製品全体（たとえば、Oracle9i Developer Suite または Oracle9i Application Server）を削除できますが、製品の個別のコンポーネント（たとえば、Oracle9i Forms Developer または Oracle9iAS Containers for J2EE）のみを削除することはできません。Oracle Universal Installer では、Oracle9i Developer Suite コンポーネントを個別に選択して削除することはできません。